

世界の貧困

2004年の『人間開発報告書』によると、世界の富裕層の上位から5%の所得合計は、下位5%の最貧層の所得合計の114倍であり、1日1ドル以下で暮らす人は11億7千万人、慢性的栄養不良にあるものは8億3千万人であるという。世界の貧困と格差は、もはや国際社会が無視することができない水準に達している。

だが先進諸国は、アジア・アフリカなどの貧困諸国に対してこれまで十分な支援をしてきたと言えるだろうか。これまで次のような意見がしばしば提起されてきた。貧困国が窮状から抜け出すことはできないのは、先進諸国から多額の経済支援を受けてきたにもかかわらず、独裁者や政府の一部のエリートたちによって利益が独占され、腐敗や汚職が横行する結果、末端の一般庶民にまで還元されなかったせいではないか。あるいは資本主義経済による発展を阻害してきた貧困国の宗教や国民性、あるいは社会主義的な管理・統制による非効率・非民主性のせいではないか。このように、これまでしばしば貧困国自身の自助努力と自己責任が問われてきたのである。

だが他方で、先進諸国にも責任があるとの意見も提起されてきている。貧困国の得意とする輸出品目の農業製品、単純加工品、繊維製品に対して、世界市場の価格を低く抑え、高い関税を設定するなど様々な障壁を課してきたのは先進諸国ではなかったか。また先進諸国は、途上国への資金提供の見返りに人権の保障や民主制への転換を求めて融資条件を厳しくし、融資後も高い利子率を設定してその債務額を膨らませてきたのではなかったか。さらに先進諸国は、独裁者や腐敗した政府を融資の相手や天然資源の所有権者として認めてその権力体制を追認・温存し、武器や資金を提供することによって内戦を激化させるなど貧困国の苦境の悪化に助力・加担してきたのではなかったか。たとえ貧困国が自国の責任を負うとしても、先進諸国は責任を免れない、とも考えられてきているのである。

質問事項

問 1 先進国はアフリカやアジアの貧困国をその窮状から救う義務があると思いますか。その理由と合わせて述べてください。

問 2 国際社会は 2000 年国連ミレニアムサミットにてミレニアム開発目標を立て、1 日 1 ドル未満で生活する人口比率を 2015 年までに半減することに合意しています。このような目標設定は適切だと思いますか。

問 3 日本の政府開発援助（ODA）は、2012 年度には純額で世界 5 位、GNI 比で世界 20 位と過去に比べ減少傾向にあります。日本の発展途上国への支援はこの程度で十分だと思いますか。